



会報『はつかさん』

創刊によせて

天津地域振興協議会

会長 景山 峻吾



天津地域振興協議会が発足して一年が経過しました。

未加入集落問題

については、未だ解決には至っておりませんが、その他の事業・行事については地域住民の皆様との協力とご支援により、極めて順調な推移を見ております。

また、住民の価値観が多様化しつつあるなかで、少子高齢化も進む現在、伝統的に住民の連携や助け合いによって維持されてきた集落での「安全・安心」な生活環境や自治機能が不安定な状況を迎えつつある姿も窺えます。

このような地域環境の変化が進む中において、当天津地域振興協議会では住民の皆様とともに、集落づくり計画・地域づくり計画の

作成を進めており、本年度中には予定通り夢と希望を盛り込んだ安全で安心して暮らせる地域の創造を目指した設計図が完成します。皆さんとともに力を合せ実践に取り組ましましょう。

各集落計画には、農村振興や活性化の好事例が多々あり、「自らの地域は自らで」の気概も読取れます。

また、水資源の保全涵養、伝統文化や豊かな自然財産の次世代への継承や道路補修、用排水路維持管理作業などの村役目についての継続が重要であることを認識することも必要ではないかと思えます。

現在天津地域でも、ほぼ全地域で取り組まれております農地・水・環境向上対策事業で、これらの継承・継続に動機を促すものがあるのではないかと思えます。

このような環境の中にあつてこそ、私たちの創意と工夫により、天津地域振興協議会は、強い絆で結ばれた組織として、住民と行政がそれぞれの役割を担い協働して活力のある、安心・安全な地域づく

くりを進めたいと思います。

母塚山の伝説

天津地区のシンボルである母塚山は、古くは『母親山』と書いて「ハツカサン」と読んでいたそうです。母塚の字が使われ出したのはごく近年らしく、読み難いという理由からか、または知らない人が当て字を書いたのか不明ですが、いつのころからか母塚山となりました。



阿賀橋付近から母塚山を望む

母塚山の伝説を紹介します。「伊邪那岐神・伊邪那美神の男女両性が現れて、盛んに国生みが始まった。」

母親神の伊邪那美神は火の神を生んで焼け死なれたので、出雲の国と伯伎の国との堺の比婆山に葬った」と古事記に記されています。そこが母親山で現在の母塚山であると伝えられています。

母親神の伊邪那美神を葬った八百萬の神々が、穢を祓うみそぎをしようとしてきましたが良い水がなく、この時女神が現われ、手に持った杖を地に立てられたらたちまち清水が湧き出て神々はその泉で身を清められたそうです。

この泉は古来湧水の記録のない谷川の「ふるや」と伝えられ、今も尚清冽な水が渾々と湧き出ています(この谷を清水谷といいます)。

大正時代まで山頂附近に、伊邪那美神を祭る社がありましたが、現在は福田正八幡宮に合祀されています。

また、八岐の大蛇の危難をこの山に逃れた稲田姫が、待ちに待った母の到来に歓喜し「母来ぬ、母来ぬ」と叫んだと言い、これが母来国↓伯岐国↓伯耆国となったと伝えられ、「伯耆国」の語源発生地と言われています。

# 天津地域振興協議会 各部紹介

## 総務企画部

部長 野口みどり

「いろいろな人に会いたい」と部長を引き受け、さあ何から始めるかと思ってもなかなか流れが私には見えてこないまま一年が終りました。

同じ地域で住んでいる人々が、安全で楽しく暮らすには何をしないといけないのか。行政のレールは敷かれています。しかし、地域振興協議会が発足したのは、地域の人々が自分にできる事で助け合い、住みよい生活環境にしてい



ふるさと交流センター美化デー

のが目的だと私は思っています。集落要望では、地域で出来ることは自分達でしようということ、総務企画部員で殆どの現場を確認し評議会に回答しました。また、横断旗を天津中の横断歩道に設置

しましたが、日常の管理方法まで気配りが足りず、その維持状況は良好とは言えません。また、子供の安全のために、車両通行時間規制の徹底や歩道の自転車走行許可なども取り組みたいと思います。

一年の間、地区の各役員さんの考え方などをお聞きし天津の輝く将来が見えてきました。お願いしておりました「集落づくり計画」もほぼ揃い、本広報『はつかずん』でも順を追っての掲載を予定しております。

「集落づくり計画」を拝読しますと、各集落ともそれぞれ悩みがあり、色々なアイデアを出されています。総務企画部でも、これは地域で出来るのか、こんなことをしたらとか色々な未来図が浮かんでできます。今後役員で話し合い、地域づくり計画を作成しますので、皆様の協力を得ながら取り組んでいけたらと思います。

天津には、すばらしい文化財や歴史が埋もれています。もちろんすばらしい人材もあります。観光ルートを考えれば、自慢できるスポット、特産品の販売も今以上に

活気付くと思えます。また、出店できる店主の協力が得られたら、高齢者に便利なお店も造ることが出来るかもしれません。

夢は大きく、「うさぎとかめ」、「アリとキリギリス」のような歩みで天津の発展を考え、子供や孫達に安全で住んで良かったと思ってもらえる地域づくりを目指して出来ることから実行していきたいと思えますのでご協力をお願いします。

縁あって、同じ地域・同じ地区に暮らす皆様、お互いに語りあい共に汗を流しましょう。それが天津の地域振興に繋がっていきます。

## 公民館部

部長 亀尾 武尚

公民館部は、天津地区公民館の事業を継承しながら、地域で行う学習、文化活動やスポーツ・レクリエーション活動を通じ、文化やスポーツに接する機会を増やし、また、趣味・生きがい活動をサポートし、地域住民の親睦と健康づくりや教養・文化の向上を目的に、地域ぐるみで青少年の健全育成と併せて、地域の人たちが身近に参加でき、学べる機会をつくりながら一緒に仲間づくりや地域づくりを行います。

公民館部は、体育と文化と青少

年・人権に別れそれぞれ活動を行っています。



地域づくり部

部長 秦 英之

地域づくり部では、第一回の部会で色々な課題や計画を話し合い、地域の自然環境と生活環境を主に活動を行う事とすることを決め一年間来ました。

最初の活動として、ごみの不法投棄パトロールを部員全員参加に行いました。参加者は不法投棄の現状に皆さんびっくりにされました。



この現状を重く見て、天津地区の不法投棄が多い箇所不法投棄禁止看板の作製・設置を行うとともに不法投棄のごみ回収作業を行いました。又、母塚山道路は特別回収作業とし、昨年は軽トラック二台分(約二時間作業)、今年は米子警察署員の立合いで軽トラッ

ク六台分(約二時間作業)のごみを回収しました。ポイ捨ては絶対しないでください。

また、ごみ不法投棄防止パトロール中のマグネットシートを作製し、自動車に貼りパトロールをしています。その他、ペット散歩のマナーの啓発用立て看板を作製しました。平成二十年からは、毎月部会を行っております。

今後の重点目標は、ごみ減量化を考えております。昨年は、リサイクルプラザに研修をしに行き、ごみの処理方法等について学びました。今年、生ごみのコンポスト処理容器の回転や資源ごみ収集として、アルミ缶収集庫をふるさと交流センターに設置します。



その他、環境美化事業として各集落に花のプランターを設置し、管理してもらう予定にしております。集落の皆様のご協力をお願いします。

母塚山といえ、子供の頃、バケツを持って小学校の給食の材料としてキノコ(松茸)を採りに皆で登った森林(松林)の風景が懐かしく思い出されます。豊かな自然環境を守る為にも天津地区のシンボルでもある思い出の母塚山の山嶺及び山林を、緑豊かな自然の姿で維持することが私達の努めです。お互いに努力しましょう。

ふれあい部

部長 古田 政明

ふれあい部は、地域の連帯と活性化を図り、住民一人ひとりが将来とも安心して生き活きと暮らせる住民参画の地域づくりを目的として活動中です。

しかし、集落には共働きの世帯が多く、また、少子高齢化の影響もあり、集落機能や地域活動を維持することが難しくなってきました。

また、地域における人と人とのふれあいが希薄なものになっていきます。在来集落と新興集落との温度差もあるのではないのでしょうか。このように諸問題は多いですが、



敬老会



歳末福祉でお餅を届けました

部の中で協議しながら自分達で決定し、地域のあり方は自分達で責任を持ちながら皆で取り組んできました。  
一人ひとりが安心して暮らせる集落を、みんなで協働して作っていききたいと思えます。

シリーズ  
**集落紹介**  
(順次紹介します)

**清水川**

清水井のあるところ

古事記に登場する『**大国主命**』が、落命したのちに泉の水で作った薬を全身に塗って介抱され、生き返ったという泉があります。それが清水井で、清水川集落のほぼ中央部に位置しています。



八上比売命と結婚できなかった腹違いの兄・八十神命は、『**大国主命**』を殺そうとして、計略を巡らして赤いイノシシに似た大岩を

火で焼いて要害山から落としました。『**大国主命**』は、その大岩をイノシシと勘違いして抱きかかえ、大やけどを負って死んでしまいました。

その後、蛭貝比売命と蛤貝比売命が、やけどに効く薬を清水井の水で溶いて、『**大国主命**』の全身に塗って介抱しました。すると、『**大国主命**』は一命を取り留めて生き返ったと伝えられています。

この清水井は、かつて鳥取県の名水百選に応募したこともありましたが、残念ながら湧水量が少ないうえに選から漏れてしまいました。江戸時代から現代までの何回かの大干ばつにも、一度もかれたことがないという話が伝わっています。川がないのに、なぜ「清水川」という地名が付いたのか、疑問に思っていたのですが、古事記に登場する清水井から発する水が流れているところで、「清水川」と付いたのではないかと勝手に解釈をしています。

それから、合併により天津村から西伯町、そして南部町となりましたが、なぜか神社は天萬神社の氏子、寺はほとんどの方が大安寺(寺内)の檀家となっています。地域的な結びつきが深かったのか、よくわかりませんが、行政区を無視したつながりには、不思議な思いがします。詳細は、もう少し古

老に聞いたりして調べたいと考えられています。



母塚山から集落を望む

高齡化に付随して、農家の後継者問題があります。これは、全国的な問題ともなっていますが、清水川も同様です。農地を荒らさずに維持管理していくことは、土地所有者の願いであり、荒らすことにより近隣の田畑の所有者に迷惑を掛けると心配されています。

歴史的に、古くから存在した集落と思われれますが、時代の流れを随所に感じます。まず、高齡化が天津の平均より早く進んでいることです。十四歳以下の集落人口率は、昭和四十年から十四から十五パーセントとあまり変動がないのに、高齡化率は十五パーセントから三十パーセントと高くなっています。高齡者だけの世帯も増加して、防災を含めた暮らしの安全をどう維持していくのかが、集落で取り組む一番の課題だと考え

そこで、平成十八年から「集落営農」を目指す動きが出てきました。農家の中から数名の役員を選び、その役員を中心に役場産業課や農業改良普及所から指導を受けました。農家の意向アンケート調査から始まり、自作の方で趣旨に賛同された九軒で、平成十九年から清水川独自の「集落営農」がスタートしました。総面積六ヘクタールと規模は小さいですが、後継者のいない農家からは、農地が荒れる心配がなくなったと喜んでもらっています。町内で先頭を切って「集落営農」(助け合い協業型農業)を続けているのも、清水井と並んでの自慢のひとつだと思います。戸数は二十六戸と少ないですが、集落の行事や天津地域振興協議会の活動(特に通学路の除草)・行事に参加することによって、世代間の交流を深めて、いつまでも活気のある集落でありたいと考えます。

## 上阿賀

### 【集落の概要】

上阿賀区は、鳥取県南部町天津地区の南側に位置し、法勝寺川沿いに耕地が開かれた水田中心の中山間農業地帯です。

農家数と非農家数がほぼ等しく混在する典型的な混合集落であり、以前より天津、大田地区の交通の要として、一定の製造・商業の集積もあり、静かな中にも人々の交流が続いていました。

しかしながら、戦後の生活様式の変化に伴い、農業の機械化と米離れが進行する中、兼業農家が増加し、現在では専業農家は無きに等しい状況に変化しています。

このような変化の中で、農業集落の良き伝統であった協同、共助の精神も希薄となりつつあり、伝えるべき伝統行事もすでに姿を消してしまつた物も多く見られるようになってきました。

その反面、スーパー丸合、鳥取銀行、JA西伯支所、量販店「コメリ」や医療機関の開設など、最近では町の商業中心が、上阿賀地区に移りつつある状況となっております。

一方、近年の全国的な流れでもある少子高齢化の状況は、天津地区では上阿賀区が最も著しく、人口の減少と高齢化が一層進行する

厳しい集落環境を迎えようとしています。

### 【区民の意識】

昨年実施された集落づくりアンケートによると、上阿賀区民の九十三%が上阿賀に住みつづけたいと考え、大多数が生活環境に満足しているという結果でした。

主な理由は、「地域に愛着がある」、「自然環境が気に入っている」、「買い物、通勤、病院へのアクセスが便利」などですが、同時に自然環境や伝統行事を守りたいという意識や、昔ながらの協同、共助の精神も色濃く残っていることが分りました。

上阿賀区では、自然環境や伝統行事を守りながら、安心、安全で住みよい集落の実現を目標に、集落の活性化を推進しています。

### 【豊かな自然】

上阿賀区には商業施設も多く、用地の半分近くを宅地が占めますが、耕作放棄地は無く、豊かな自然環境もまだまだたくさん残っています。

その内の一つである区の真ん中を流れる足シ川で、七月初旬、西伯小学校の児童が、川に住む生き物の生態調査を行いました。

この川は最近少なくなった土水路で、多くの生き物を育てており、

町の自然観察指導員さんから「これほど多種類の生物がいる川は、町の宝です」とのコメントがありました。区の財産、環境保護の象徴として、大切にしていきたいです。

### 【集落の象徴】

(公民館と桜)

上阿賀公民館は、戦後まもなく、天津小学校の教員室や教室であった建物を人力で運び、現在の場所に移設されたものです。



公民館の建物は古く、時代の流れに取り残されたような印象もありますが、長い風雪や地震に耐え、今も建設当時の面影を残して毅然とした佇まいを保っています。

また、公民館の移設時に記念として植えられた桜、松、なぎなどの木々は、樹齢を重ねて大きな樹木に成長し、なかでも三本の桜の

木は毎年見事な花をつけ、区民の目を楽しませてくれます。

### 【伝統行事】

(祇園祭)

上阿賀区の伝統行事の一つである祇園祭は、文政十一年(一八二八年)に家内安全、延命息災を祈願し京都の祇園社(現在の八坂神社)より勧請され、上阿賀地内の荒神社に祀られたもので、今年が百八十年目にあたります。

お祭は、時代と共に形を変えながら現在まで大切に受け継がれてきました。今年も荒神社での祈願の後、夕方からは千灯万灯の篝火の中、子供達の引く山車が元氣な掛け声とともに区内にくり出しました。花火が夜空を照らし、公民館では屋台や、趣向を凝らした出し物、歌などの演芸大会が開かれ、世代を超えた交流の場となっています。



# 今後の予定

日にち	行事名
9月21日	ふるさと交流センター美化デー
9月27日	たそがれコンサート
9月28日	敬老会
9月	ゴズ釣り大会
10月5日	天津地区運動会 <雨天10月12日>
11月1日	教育の日事業への協力
11月2日	不法投棄ゴミ回収事業(秋)
11月2日	ボランティアフェスティバルへの参加
11月9日	ふれあい芸能 in さいはく
11月16日	天津地区駅伝競走大会 <雨天中止>
11月16日	撮影会(秋)
11月23日	歴史探訪
町に併せて	防災対策(秋の防災訓練)
12月23日	歳末福祉餅つき会の開催
12月	しめ縄づくり
1月18日	ソフトビーチバレーボール大会
冬	グラウンドゴルフ大会
2月1日	町大会への参加
2月	お菓子づくり
3月7・8日	天津地区文化祭

※これらの行事は予定ですので、日程等は変更になる場合があります。

## 外階段設置



節、大きなイベントもありませう。ぜひ利用してください。

以前から、ふるさと交流センター裏側下にある駐車場に車を停めると建物ぐるっと回らないと正面玄関に行けなくて遠いという話がありました。これを受け、八月に駐車場から交流センター裏へ上がる階段が新設されました。



## 集落の環境保全へ

「農村はもっと美しくなる」をテーマにした「農地・水・環境保全向上対策」の導入集落が広がりました。農林水産省が耕地環境等を地域全体で守り支えあう取組みとして平成十九年より実施した交付金制度で、農業振興指定農地を集落・水系等を基準にして一定の管理基準に基づいて集団で管理する場合に、管理耕作面積に応じて交付金を支給する制度です。

この管理集団の組織制約には、自治会・老人会・女性会・子供会・実行組合等が重層的に参画する事がうたわれており、当南部町では協定当事者である町長の意向で、補助対象農地は水田(畑・草地除外)のみ、経費支出では作業日当は不可と定められ、運営上で頭を悩ます一面を抱えてのスタートでした。昨年度は、境・坂根・谷川・柏尾の四集落で採択され、諸事情で遅れておりました上阿賀・清水川も、今年度よりの参画が決定し活動を開始致しました。

申請範囲内の水田・農道・用排水路が一定基準で管理され、除草や補修・浚渫に加え簡易な修理が対象となり、「フラワーロード」として沿道の美化事業に取り組みだり、蛍やメダカ・シジミ等多様な水棲動物の保護活動に取組む集

落が生まれました。農家集落から発展して来た天津地区の環境保全に緩やかなガイドラインができ、先発の急傾斜地農地に対する直接支払制度と併せると、天津地区水田約百九十八・七ヘクタールのうち、およそ七十五%に網が係る事となり、世代間交流を含めた新しい動きに期待が強まります。(H記)

## 広報「はつかさん」

紙名の「はつかさん」は、応募案を「総務企画部会」で匿名審査の結果、当部の部長野口みどりさんの応募作が採用となりました。

また、題字に付きましては、編集委員会でもフォレストタウン清水川の書家、遠藤真次さんに曲げて依頼を申し上げ、ご好意に甘えさせて頂きました。紙上を借りてご披露申し上げます。

## 編集後記

当振興協議会の発足以来一年余りが経過し、この度ようやく広報紙第一号をお届けできる運びとなりました。

三ヶ月毎に発行の予定で編集作業を行う計画ですが、浅学非才の私どものこと、暖かい目でご支援のほどお願い申し上げます。

はつかさん編集委員会(順不同)

- 種 治孝 畠 稔明
- 秦 啓郎 畑中 昌美